

12月議会報告

一般質問

堀金学校給食センターは宝！

4センター維持を！

地域の伝統文化 食文化を守れ！

新型コロナウイルス感染症の終息が見えませんが、皆様には不安な日々をお過ごしのことと思います。

12月議会における一般質問で臼井議員は、10月に行われた学校給食センター市民説明会を受けて、市民説明会に教育委員会が提出した資料が

いかに不十分なものであったか、堀金学校給食センターが廃止されれば安曇野市の学校給食から何が失われてしまうのかを質し、4学校給食センターの維持を主張しました。

「12月議会の概要は、日本共産党安曇野市議団

ニュースNo.50でご覧いただけます」

重要な資料を説明会に出さないで

なぜ「3センターに」と言えるのか

地産地消に係る資料

臼井 堀金センターは、堀金物産センターが食材の納品業務や事務をボランティアで行い、地産地消率を高率で維持してきた。この1年間の地産地消の取り組みと資料を出さなかった理由を伺う。

教育部長 昨年の説明会の代表的な意見に答えることを主眼にした。(以下「意見A」とする)

説明会開催通知が遅い

臼井 10月に行われた学校給食センター(以下センター)市民説明会の開催の知らせが、昨年度の説明会では1か月前だったが、今回は2週間前の広報あづみの等だった。少なくとも1か月前でな



いと、参加できない市民もいたと思われる。

説明会の日程は7月末にはできていた。公民館施設等の利用は6月から再開されていた。なぜ短い周知期間だったのか。

教育部長 広報による周知期間が昨年に比べて短かったことは事実だ。

臼井 7月の教育委員会定例会で日程説明がされ、8月の定例会では協議議題となり決定している。多くの市民にしっかりと理解してもらう姿勢に欠けていたのでは。

下「答弁A」今回は、各センターの具体的取組資料を作成した。積極的に地元食材使用メニューの考案にも努めている。

臼井 30年度と31年度の地産物使用率を伺う。

教育部長 正確な数字はない。

臼井 昨年度の資料で5年間の地産物使用率の推移を見ると、センターによって1年目より5年目

が低かったり、3年間平均を下回ったりしている。30、31年度の使用率も示せず、意識が低い。今回の説明会でも地産地消をさらに進めるとしながら、この保障がなくなるとなぜ3センターでいくことを理解してほしいと言えるのか。堀金学校給食センターの廃止案は撤回すべきだ。(太線部は以下「意見B」とする)



重要な資料を説明会に出さないで (続き)

なぜ「3センターに」と言えるのか

農家とセンターをつなぐ コーディネーターに 係る資料

係る資料

白井 堀金村時代に配置されていたコーディネーター職員について、現状と課題、関係資料を出さなかった理由を伺う。

教育部長 答弁A。食育の推進や地産地消の取組を充実していきたい。

白井 今は考えてないということだ。地元産使用率を上げる上でコーディネーターの役割の重要さと今後の方策がなくて、意見B。

子どもの意見に関する資料

白井 センター(問題)の当事者は子どもだ。子どもに存廃について意見を聞けとは言っていない。子どもがセンターをどう認識し、それを教育委員会がどう捉えるかは必須だ。なぜ、関係資料を出さなかったのか。

教育部長 4センターに遜色はないと感じる。

白井 子どもの声を聞かなくて、意見B。

教職員の意見に係る資料

白井 子どもと同じものを食べ、子どもの食育に直接関わる教職員が子どもの給食センターに対する認識をどう捉えているか。なぜこれに関わる資料を出さなかったのか。

教育部長 教職員、子どもから、例えばアンケートによる評価をすると大変な労力がかかる。

白井 調査にはやり方がある。教職員の意見を資料として出さなくて、意見B。

センター教職員の 意見に係る資料



白井 センターの栄養教諭は、幾つもの自治体の

様々な規模の給食センタ

ー・給食室を経験し、そ

こで作られる給食の特徴

や、おいしい給食・子ど

もとの関わり・地産地消

・農家などの食材生産者

とのつながり等の限界を

一番分かつている方だ。

調理員も、おいしい給

食、食育を担い、毎日の

子どもとの距離が重要な

モチベーションになって

いる。これら教職員の意

見に係る資料をなぜ出さ

なかったのか。

教育部長 答弁A。栄養

教諭は、自校給食方式に

越したことはないが、他

のセンター方式でも遜色

のない給食は提供できる

という意見だ。

白井 果たしてそうなの

か。後の質問で伺う。

保護者の意見に係る資料

白井 家庭の食育を担

い、学校の食育に信頼し、

期待を寄せ、コロナ休業

により改めてそのありが

たさを感じた保護者の多

様な意見をどう捉えてい

るのか。なぜ関係資料を

出さなかったのか。

教育部長 答弁A。保護

者の意見は、市民説明会

で聞いた。各センターで



なかった。

(注) 傍線部は、全く不

誠実な答弁です。

白井 私が重要と考えて

いる2002年5月から

の堀金センター検討委員

会の村長への答申につい

てどう考えるのか伺う。

教育部長 「給食施設の

建設に関わる議論の経過

について答弁する」

白井 私の質問に答えて

ください。

教育部長 議論について

は、今説明した通りだ。

(注) 白井議員が質問し

ている2002年7月17

日の検討委員会の答申」

堀金センター建設に 係る議論の資料

白井 現在の堀金センタ

ーの建設に関わる議論を

どう捉えるか。なぜ資料

を出さなかったのか。

教育部長 答弁A。堀金

センター建設の経過は、

かった」ことにあります。

白井 質問に答えられな

い状況だ。

市民説明会での意見は

白井 市民説明会で出た

意見をどう評価するか。

教育長 5地域で6回の

市民説明会で延べ202

人が参加、72件の意見が

あった。1つは、文科大

臣賞受賞な伝統ある堀金

小学校の給食のよさを存

続させ、全市に広げてほ

しい。2つ目は、食育の

取組として給食を作って

いる人や食材生産者の顔

の見える、五感で感じら

れる給食の意義をもっと

考えてほしい。3つ目は、

経費削減のために堀金セ

ンターを廃止しないでは

しい。4つ目(次頁へ)





は、堀金センターの自校給食をブランド化し、安曇野市をアピールして人口増につなげるべきである。反対する意見は、同類意見を1件として数えると35件。

調理の場を毎日見られなくなる

白井 子どもが毎日調理現場を見られることは、引き継げるのか。

教育長 堀金センターでは、窓越しからサラダ室の調理の様子だけを見られる。他のセンターは、学級単位ぐらいの大人数でも、調理のほぼ全ての

市民の宝が奪われる

賛成の方は3件。後日メールの賛成意見が2件。賛成の意見は、人口減・税収減の中で、センターの統廃合を考えなければ子どもの負担になるというもの。

調理の場を毎日見られなくなる

白井 子どもが毎日調理現場を見られることは、引き継げるのか。

引き継げるのか。

教育長 堀金センターでは、窓越しからサラダ室の調理の様子だけを見られる。他のセンターは、学級単位ぐらいの大人数でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての

でも、調理のほぼ全ての



三九郎

工程を見られる。

白井 堀金小以外は、小学2、3年生時に1回、数分間全体を上から眺められるのが実態だ。

「地域の食材」を身近に感じ取れなくなる

白井 子どもが身近な地域で作られた食材が使われていることを感じ取れることは引き継げるか。

教育長 堀金センターほどではないにしても、引き続き地元食材や生産者を紹介し、その方々との交流給食会を充実させる必要がある。

白井 子どもは給食時の校内放送で学区内の区の名前、農家の名前が出れば、どの辺かと考える。農家の名前を聞いて、「知

っている！」などと言うかもしれない。登下校に見る畑の作物への関心も高まり、農家の働く姿に何をしてるんだろうと関心を寄せる。これが身近に感じるといふことだ。

これが引き継げない。

調理後 子どもが食べるまでの時間の短さが奪われる

白井 調理後、子どもが食べるまでの時間の短さは、引き継げるのか。

教育長 4センターとも調理完了から子どもが食べるまでの基準時間を設け、逆算して調理完了時間を決め、作りたての暖かい給食を届けるよう心を込めて働いている。

白井 調理完了後の時間により、暖かさやおいし

地域の伝統文化・食文化が奪われる

白井 自校方式的給食環境に子どもがいる保護者の安心感は、ほかのセンターに引き継げるのか。

教育長 全ての給食センターで、これまで保護者から不安の声をもらっていない。

保護者の自校給食の安心感が奪われる

白井 地域の人々が長年培ってきた自校方式的給食の伝統文化、食文化は引き継げるのか。

教育長 それぞれの歴史や文化、思いはしっかり受け止め、センター運営に一層の努力をしたい。

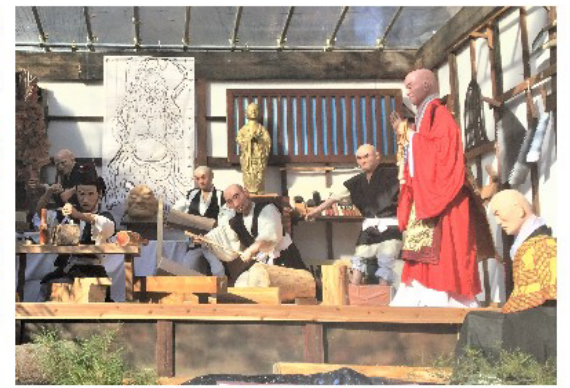
白井 このように、ほかのセンターでは絶対に引き継げない食文化、伝統文化を、子ども、保護者、

地域から奪うことになる。堀金センターの廃止をどう思うか。

教育長 奪うとは認識していない。

白井 子どもにとって大切な食育から奪われるものがあることへの痛みが語られると思っていたが、そういう答弁ではなかった。非常に残念だ。

世の中には止むなく廃れていく貴重な伝統文化もある。その文化を楽しみ、残そうとする人がなければ止むを得ない。しかし、堀金のセンターは



伝統の穂高人形飾り物

生活保護の申請 扶養照会は義務ではない

1月28日の参議院予算委員会で日本共産党の小池晃書記局長の質問に田村厚労相が上記のように答えました。新型コロナの影響で生活困窮に陥っている方が増え続けています。生活保護の申請を親族に知られたくないために、申請窓口の扶養照会で申請をためらうことが起きてきました。市の窓口対応の改善が迫られます。

生活保護の申請は国民の権利です。

生活保護を必要とする可能性はどなたにもあるものですので、ためらわずにご相談ください。

上記は、昨年9月に厚労省リーフレットに載り、12月にはホームページにも載った一文。

違う。経費節減の下に、この文化を切り捨てていいのか。各地域で大切にしている文化を切り捨てていくことにつながる。教育長 切り捨てることには当たらない。



コロナ禍から



市民の命とくらし、営業を守れ

医療支援 事業支援 PCR検査

多くの市民からコロナ禍の影響や要望をお聞きしています。

娘の雇止め、仕事への深刻な影響、子どもの学校行事の残念な縮小、遠くで暮らす子どもや孫と会えない寂しさ、一人で頑張らざる

を得なかった入院出産、ねぎらいの言葉もかけられなかった嫁の出産、夫の仕事の感染不安から出産後実家に帰り別居、介護施設や障がい者施設でのクラスター不安・

…。多くの市民は「我慢するし

かない」「できることをするしかない」と耐えています。

しかし、これまで通りの「お願い」だけの感染抑止対策では、緊急事態宣言が解除されれば感染の第4波は避けられません。

毎日気をつけて がまんしているけれど
市が何をしているか分からない

広報あづみの「定期発行、新型コロナウイルス感染症に特化した臨時増刊号「保存版」(計4号)」を見てもわからないことは市役所に聞き、積極的に要望もしましょう。市民のための市役所です。

緊急事態宣言発令都府県や県内の「特別警報Ⅱ」となった自治体では

検査B 感染可能性が高い地域や集団が対象

*費用は公費負担。

集団等への検査

例①松本市で高齢者施設の職員に1月

14日～16日に43施設2750人に検査

例②松本市で2月6日に感染が確認された小学生の学校の児童や教職員40

人にPCR検査を実施。

地域への検査

例③上田市で9月初旬に94店舗165人に検査を実施。

例④白馬村で1月26日に飲食店従業員200人余りにPCR検査を実施。

保健所が医療機関とやっている感染防止

*市からも保健所に保健師が派遣されています

発熱等で感染が疑われる人は
医療機関で診療・検査して
感染が判明



保健所は感染者に
行動歴等の調査

調査①どこから感染したか

・発症14日前からの行動

調査②誰かに感染させていないか

・発症2日前から入院するまでの人との接触



右上へ

濃厚接触者を特定する

濃厚接触者は「同居など長時間の接触」や「1m以内・マスクなし・15分以上の接触」を基本に総合的に判断する。

濃厚接触者とされた人

→検査→陽性判定→自宅待機



陰性判定 病院か宿泊療養か自宅療養を指示

検査A 発症者と濃厚接触者が対象

さらなる検査Cを感染集積地への面的検査 医療・介護施設等への定期的検査を！

無症状感染者が感染を広めているので、

感染集積地を定めて**面的検査**

(地域住民や事業所従業者全員対象の検査)とともに、

リスクの高い**医療・介護・福祉施設等への定期的検査**が必要です。全国的な課題ですから、全額国費で積極的になされるべきです。

しかし、日本ではこのような検査を緊急事態宣言が出さ

れた自治体でも積極的にやらず、予算も限られている状況です。

ところが、これらの検査にこれまで否定的な立場をとっていた**政府分科会の尾身会長**は、検査が「宣言解除後最も大事なこと」と、**同メンバーで日本感染症学会の館田理事長**も「宣言解除後急所の部分に検査を集中していくことが大事」と言い始めています。



1月15日、現状に即した、医療機関支援や規模に応じた事業者支援、生活支援、積極的PCR検査等を要望しました。

日本共産党安曇野市議員
**市長に新型コロナ対策
緊急申し入れ7回目**